

## 第15期 第7回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成29年11月9日(木) 午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、森田委員、市川委員、信山委員、田中委員、白井委員、加藤委員、菊地委員、棚井委員、千葉委員、西成委員  
(順不同)
- 傍聴人 0名
- 議題 (1) 第15期小平市緑化推進委員会の検討課題について  
(2) その他
- 配付資料 (1) 第15期緑化推進計画提言 たたき台3

### 会議の要旨

まず、委員長より、資料(1)「第15期第7回緑化推進計画提言 たたき台3」について説明があった。

説明後、次のとおり質疑があった。

#### 委員

「都会から一番近い田舎」とあるが、都会ではなく都心と言った方がよいのではないか。

#### 委員長

都心と言った方がふさわしいかもしれないが、すでに都会というフレーズでスタートしているので、都会というフレーズで宣伝していく。本質的には、都心のもつ人や情報の集中、利便性から電車で30分の距離にあるという意味である。このような立地条件で他に対抗する市区町村はあるか。

#### 委員

西東京市や国分寺市、練馬区はどうか。

## 委員長

西東京市は住宅地が多く農地はあまり多くないのではないかと。国分寺市も同様。練馬区は農地はあるが23区内なので田舎という意識はないのではないかと。そう考えると小平市はふさわしいと思われる。

## 委員

森のカルテの目的意識や方向性は何になるか。実施して得られたデータをどう活用していくかを考えなければならない。雑木林をどう資源とするか。景観、生物多様性、環境教育などあるなかで小平市としての目的を明確にできればよいが。

雑木林のボランティアについては維持管理ができるボランティアが減少しているなかで市民をどう誘導してくか。

## 委員長

ボランティアにとっては目に見える形で何かあればやりがいになる。やりがいの目標設定ができればよい。例えば、ボランティア活動によって昔の自然が蘇った、希少生物の数が増加したなどの指標があれば活動のやりがいになるのではないかと。森のカルテはその指標のひとつとなる。森のカルテによって雑木林と人をつなげていき、ボランティア活動へ関心を引きつけていくのがよい。

## 委員

ボランティアについては、定年退職後の人や、引きこもりの若者が外へ出るきっかけにできないか。

## 委員長

定年退職後の人で言えばやりがいや、やるきっかけをつくることができれば参加してくれる人も増えるのではないかと。

## 委員

小平市緑と花いっぱい運動の会の会員数も減少してきている。若者があまり入りたがらない。

## 委員長

若者にとっては共働きや保育園数の問題があるなか、公共の場所で活動するのは厳しいが、日常的なところでの活動はできるので花や緑に関心を持ってもらえればよいが。

## 委員

最近は若い女性で花や木に関心を持つ人が増えている。若い女性がボランティア活動の経験から林業の会社をつくるような方もいる。

## 委員長

基本的に花への関心は女性の方が強いと思う。あとはそういった人達をどうやってボランティアへ誘導していけるか。

## 委員

景観について、道路に電線や電柱がなくなれば街路樹が目立つようになる。無電柱化のまちづくりが緑化につながるのではないか。

## 委員長

やみくもに減らしていくのは違うが、場所によっては効果的ではある。市内で実験的にできないか。

## 事務局

花小金井駅の北口には無電柱化しているエリアがあり、あるのは街灯のみ。確かに樹木が目立つように感じる。他にも無電柱化を予定している開発もある。

## 委員長

川越など無電柱化に成功した例もある。ディベロッパーにとってメリットのある提案ができるとよい。また、開発による提供公園は小平市にとって資源になる。四角くつくるだけでなく、みどりや景観を考えて戦略的にまちづくりへ活かすことが大事である。提供公園を道路と一体化させて無電柱化するなど景観を変えていく取り組みができるのではないか。

## 委員

花は人を引き寄せられる。広いところに植えて、時期になれば一斉に咲くような仕掛けができないか。

## 委員長

やるとしたら公園になるだろう。それも鉄道沿線で見えるところがよい。あとは用水の土手など。人が通るところでやらなければ意味がないので、ゾーンを決める。それが話題になれば、花植えのボランティアにとってもやりがいにもなる。

## 委員

こどもたちの課外授業として花植えをやるのも一つの方法ではないか。

## 委員長

やってもらう人は小学生、ボランティア、農家など関わる人を広げていくのがよい。

## 委員

せっかくやるなら継続させることが大事だと思う。雑草の問題もある。

## 委員長

一つの花壇をずっと同じボランティアに任せるとするのは不可能である。ボランティアに責任を課してはいけない。一度咲いたらそこで一旦終わりというように区切りをつけながらやるのがよいのではないか。

## 委員

緑化推進計画提言について、プチ田舎と緑化推進の2つに区切るのがわかりやすいのではないか。

## 委員

大きく2つに分けるといいかもしれない。例えば、プチ田舎の推進と緑化推進など。ただ全部がプチ田舎に関係しているものと考えている。今回の提言はプチ田舎を全面的に出していきたいという思いもある。

## 委員

雨水を貯留して、用水路へ流すことはできないか。

## 委員長

合流式なのでそれは難しいのではないか。貯留槽をつくり、雨水を流すようなことをしている自治体もあるが、小平市の場合、水道局との兼ね合いもあるので難しい。西国分寺の姿見の池は武蔵野線のトンネルから引いた水でできている。小平でも新小平駅付近のトンネルから出る水を用水路に流せないか。

## 事務局

現在、新小平駅周辺のトンネル内に出る水はポンプで小川用水へ送っている。

## 委員

府中街道と五日市街道の交差する付近でポンプ上げはしていないか。

**事務局**

ポンプ上げはせず、砂川用水にそのまま流している。現在少しではあるが小平第十小学校の裏あたりまで流れるようになってきている。

以上